

# 第1学年 生活科 学習活動案

	対 象	授 業 者
第1学年1組	33名	
第1学年2組	33名	
第1学年3組	32名	
第1学年4組	33名	
第1学年5組	33名	

1 単元名:「あきとともだち」 内容項目:(5)季節の変化と生活、(6)自然や物を使った遊び

2 単元の目標(単元を通して子どもたちが学ぶであろうことから)

秋の自然と関わる活動を通して、遊びや、遊びに使う物を工夫して作ったり、身近な自然の違いや特徴を見付けたりすることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって遊びのおもしろさ、自然の不思議さに気付くとともに、身近な自然を取り入れて自分の生活を楽しくしたり、みんなと楽しみながら遊びをつくり出したりすることができる。

3 育成をめざす資質・能力(育つと考えられる資質・能力)

知識及び技能の基礎	思考力、判断力、表現力等の基礎	主体的に学習に取り組む態度
秋の自然と関わる活動を通して、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わる事、遊びのおもしろさ、自然の不思議さに気付くことができる。	秋の自然と関わる活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫して作ったり、身近な自然の違いや特徴を見付けたりすることができる。	秋の自然と関わる活動を通して、身近な自然を取り入れて自分の生活を楽しくしたり、みんなと楽しみながら遊びを創り出したりしようとする。
①植物や生き物、気温、風などの秋らしい自然の様子や、秋の自然物を使った遊びのおもしろさ、自然の不思議さに気付いている。 ②秋の自然物を染料に使った染め物遊びの中で、秋の色味の良さや違いに気付いている。 ③楽しく活動するためには、道具や用具を適切に使うことや整理整頓、活動後の掃除、ルールやマナーを守ることが大切だと気付いている。	①秋の自然物を他の物に見立てたり、その特徴を生かしたりして、実際に作りながら、より楽しいおもちゃにするにはどうすればよいかを考えている。 ②秋の自然物を染料に使った染め物遊びの中では、色味の違いを味わったり、染め柄や絞りの違いなどを比べながら楽しんでいる。	①秋の自然物を使って遊ぶことの楽しさに気付き、秋ならではの遊びを、より楽しくしようと取り組んでいる。 ②秋の自然物を染料に使った染め物遊びの中で、よりよい染め柄を付けたり、布を使った工作をしたりするために、協働的、探究的に取り組もうとしている。 ③今後も積極的に自然と触れ合って遊んだり、身近な自然を取り入れて自分の生活を楽しくしたりしようとしている。

4 研究の手立て

○子ども主体の学習になるための手立て

(1)必然性のある材

本単元「あきとともだち」では、単元導入前から、春や夏での経験から「秋になったら秋遊びもしたい。」と、秋の訪れを楽しみに待っていた。子どもたちは、秋らしいものというと、紅葉やどんぐりなどをすぐに思い付いた。「赤や黄色に色づいた葉や、どんぐりを探し、拾ってきたい。」という願いから、都立園芸高校での校外学習を設定した。校外学習では、秋の風を感じたり、枯れ葉の感触を全身で味わったりと、積極的に自然と触れ合うことができた。帰校後には、まず秋の素材をじっくりと見て触って味わう場を設定した。すると、おのずから葉の色付きやどんぐりの転がりなどを楽しみ、遊びたい気持ちがあわいてきた。色付いた葉でお面や被り物を作ったり、服に見立てて身にまったりなどの活動につながり、図画工作「つくってへんしん」として楽しんだ。その後、どんぐりやまつぼっくりなどを使った工作では、こま回しやけん玉、迷路などの「秋おもちゃ」を作って遊んだ。「秋おもちゃ」でお互いに競ったり比べたりする中で、おのずと試行錯誤をし、工夫して活動することができた。

「秋おもちゃ」の活動と並行して、「紅葉はせっかくきれいなのに、数日で茶色く枯れちゃって、もったいない。」との子どものつぶやきから、黄色く色づいた桜の葉を染料にした「染め物」の活動を教師から紹介した。子どもたちはすでに、夏の「あさがおのおこすり染め」の経験で、自然色を味わい、残すことの楽しさを知っている。また、あさがおのつるを捨てずにリースにすることで、枯れた後もあさがおを長く身近に置いて、一緒に居続けたいという願いを叶える経験をしている。それらを想起して、子どもたちは自然に「秋を楽しみ尽くしたい」という願いをもち、染め物に興味があわいて、第3次の「染め物遊び」の活動に接続した。

あくまで「秋を楽しむ」ことが本単元の活動内容のため、どんぐり工作にとっても熱中している子どもなどに、染め物の活動を

することを無理強いすることはしない。また、「染め物の布を活用した秋の工作」などを楽しむ子もいるだろう。子どもの工夫や願いを、ありのまま活かせるような活動になるように留意して関わっていく。

## (2)子どもと共に追究する一人の教師としてのあり方

自然物を使った染め物遊びを、材として開発するにあたって最も重要視したのは、子どもが「染めたい」「染まってうれしい」と感じられるような活動になるようにデザインすることだった。あくまで「秋」という季節を楽しむことが本単元のねらいであり、秋の自然物からきれいな色が出るという驚きと喜びを、子どもと共に感じたいと考えた。そのため、染料は、紅葉したさくらの葉(うす桃色に染まる)と、どんぐり(茶色に染まる)の2種類を選んだ。また、染める活動を複数回設けることで、子どもに繰り返すよさを感じてほしい。条件を変えながら染める活動を重ねてきた教材研究の中で、染めるということの奥深さや魅力を教師が体感したからこそ、材として子どもたちに適していると感じ、選んだからである。「どんな色が付くのだろう。」「こう絞ったらこんな柄ができるのは意外だ。」「今度こそイメージ通りに染まってほしい。」など、繰り返し染めたくなる、おのずから黙々と没頭できる染め物の魅力を、子どもたちにもたっぷりと味わってほしい。

## ○探究的な学びに向かうための手立て

カリキュラム・マネジメント(※後述)

## ○協働的な課題解決に向かうための手立て

自分の考えや思いを一人ひとりをもつ

子どもたちは個別で作る、遊ぶ、染めるだけでなく、周囲の友達の様子を見て、楽しそうな活動には自然に加わったり、交流したりする。そして、友達との会話や友達の行動や作品を見ることで、自分はどうしてみたいのか、活動のイメージをもちやすくする。基本的には個人で活動することだが、布の折り方や絞りの付け方など、自分のやりたいことを見出したり、それを実現するためにはどうしたらよいかを選び取ったりして、決めたり染めたりと、お互いに影響し合いながら活動できるようにしていく。

## 5 キャリア・未来デザイン教育の視点から

	「キャリア・未来デザイン教育」の視点	予想される子どもの姿
①	人間関係・社会形成能力(協力・協働) ※他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーションスキル、チームワーク、リーダーシップ等	・子ども同士で見せ合ったり、一緒に遊んだりしている。 ・友達から教わったり、友達に教えたりして、コツや情報を共有することで、互いに影響し合っている。
②	自己理解・自己管理能力(主体性・思考力) ※自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスマネジメント、主体的行動等	・自分がやってみたいことなどを、決定している。 ・自分が伝えたいことを、意欲的に発信している。 ・魅力の発信に向けて、積極的に活動している。
③	課題対応能力(課題発見・分析・解決) ※情報の理解・選択・処理など、本質の理解、原因の追究、課題発見、計画立案、実行力、評価、改善等	・課題や活動結果から、何を指すかを考えている。 ・得た情報から、具体的な取り組みや工夫を考えている。
④	キャリアプランニング能力(主体性・役割理解・社会貢献) ※学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性への理解、将来設計、選択、行動と改善等	・様々な人と関わりながら活動することで、もっと楽しくなることや、自分の役に立つことを理解している。

6 「せたがや探究的な学び」の4つのプロセス

世田谷区では、幼児・児童・生徒の実態に即した「せたがや探究的な学び」を通した指導改善に取り組んでいる。世田谷区の児童・生徒の実態は、学力は定着しているが、学んだことが社会で役に立つという実感や、将来の夢や目標の実現への意欲、人の役に立つ人間になりたいといった意志に課題が見られる。学びの中で自ら課題を発見し、その課題を解決するための「探究のプロセス」を繰り返し、発展させていくことを通して、将来自己実現を図るために必要な資質・能力を習得できるような学びを推進していく必要がある。

	探究的な学び 4つのプロセス	予想される子どもの姿
1	課題を見出し、把握している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋の葉の色付きの美しさや、どんぐりの可愛さなど、秋の自然物のよさに気付いている。</li> <li>・「見付けたい」「作りたい」「遊びたい」「染めたい」など、願いをもっている。</li> <li>・自分の活動に没頭し、黙々と活動に取り組んでいる。</li> </ul>
2	課題解決の方法を考えている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イメージするものを作ったり遊んだりするための材料や道具を考えている。</li> <li>・友達の作品を見たり、調べたりして知ったことを、自分の活動に生かそうとしている。</li> </ul>
3	協働して学んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品を見せ合う、真似する、修理する、一緒に遊ぶなどして、関わり合っている。</li> <li>・必要に応じて、誰かに相談をしたり、手伝ってもらったりなどして、関わり合っている。</li> </ul>
4	学びを振り返り、次につなげている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の作品を見たり、友達が遊んだりする様子から、次にやりたいことを見付けている。</li> <li>・友達の染め柄や染め色の付き方を見て、次にどう染めたいかイメージをもっている。</li> </ul>

7 単元について(単元計画・評価の観点) ※後述

8 本時の展開 ※別紙本時案参照